

□議員名：矢田松夫

1 市民の生活に直結する課題こそ「直接」対話をする

論点	まちづくりに大きな支障が起こり得る、津布田小学校の廃校や下津、津布田、出合保育園の廃園について、市長が直接対話で市民の声を聞いたのか。
回答	本市では、市民の皆様の意見を直接聞く場として、必要に応じて姿勢説明会を開催している。団体の皆様と対話をする「みんなd eスマイルトーク」は新型コロナウイルス感染症の影響で開催がかなわなかったが、現在は再開できる時期になってきたと考える。今後も引き続き、市民の皆様の意見を広く聞く場を設けるとともに、まちづくりを行っている団体の皆様と意見交換していきたい。

論点	本年度については、直接市民との対話を行うということでもいいのか。
回答	組織として説明をする内容等について検討をし、必要に応じて実施していく。

論点	現場に行き多様な意見を聴くことは、民意にとって大事なことである。4月からの水道料金の値上げについて説明会は開催されず、チラシや広報紙の配布のみで、市民の声は集約されなかった。市長は説明責任を果たしたと言えるのか。
回答	水道料金の改定は令和5年9月定例会で議決された。市民の声を聞くというより、広報紙などで料金改定の啓発の徹底に努めた。説明の要望があった場合は、出前講座で対応している。

2 硬直した財政力について問う

論点	8年間の任期で「協創推進予算」が花開き果実となったのか。
回答	現時点では目に見える成果を語られる段階ではないが、事業を通じて協創のまちづくりの推進を図っていきたい。

3 災害に強いまちづくりについて

論点	市立ねたろう保育園は2年連続して浸水したが、650万円の事業
----	--------------------------------

	予算で絶対に浸水は起こらないということか。
回答	調査設計の中で、河川及び流域の調査、測量を行い、経済性、施工性等を比較考慮し、浸水対策工法を検討する。

4 子育て支援の充実について

論点	市内の児童クラブ利用待機児童数が21人となり、そのうち16人が厚狭第一、第二となっている。新設の教室開設により待機児童が完全解消されるのか。
回答	定員が増加され、整備後には待機が解消されると見込んでいる。

論点	児童クラブの定員は法律や市条例でおおむね40人以下となっているが、厚狭第一、第二の利用は何人か。
回答	厚狭児童クラブが2クラスで80人、第二厚狭児童クラブは1クラスで46人である。 第二厚狭児童クラブについて、定員はおおむね40人となっているが、施設、部屋の広さ、支援員の人員配置は適切に児童の皆さんが安全に保育できるという判断の下、46人で決定している。

論点	入学祝いを現金で支援するよりは、制度改正や地域経済支援が先ではないか。
回答	事業計画策定の中でアンケートを行ったが、金銭的支援の希望が多数あったので今後も継続していきたい。